



# 小さき群

救主降世2013年6月号

第84号

2013年度北海道教区宣教目標

『確かに未来はある あなたの希望が断たれることはない』

箴言23章18節

## <麦日和>

ミカエル鈴木典明

三月末に帯広に引っ越して来てから二か月が過ぎようとしています。やっと暖かくなり庭の草も一気に伸びてきたのが気になりつつも、あわただしさにかまけて手入れが出来ないままでした（住宅街に住むのは二十年以上ぶり・・・）。ご近所の家々はきれいになっているのを見るとさすがにこのままではまずいと思い、時間を見つけて草取りをようやく始めました。草取りを始めると、なぜか昔の風景を思い出してきました。

二十年ほど前になるでしょうか・・・。パンを作りたくて、それならいっそのこと原料の小麦から作ると思い立ち、初めて小麦を作付けした頃の事です。種まき機を押し、ひたすら小麦を播いたことを思い出します。どんな事でもそうですが、初めて何かを自ら望んでしようとする時は、不安もあるけれど、それ以上に期待や希望が大きいものですよね。黄金色の麦畑を想像しながらワクワクしていました。今思うと笑ってしまいますのですが、本当に最初は芽が出てそれが小麦なのか雑草なのか分からず、結局そのままにして草だらけになった記憶があります。それでも、日々成長していくのが嬉しくて足しげく畑に通いました。実は小麦を作るために畑を借りるにあたってエツという出会いを経験しました。

脱サラして有機農業を営んでいるご夫婦の畑の一部を借りられることになったのですが、「以前会ったことない？」と訊かれ、お互いあれこれと話をしていくうちに分かりました。さかのぼる事その十年前、その頃私は帯広聖公会と帯広聖公会幼稚園に勤務をしていたのですが、道内の私立幼稚

園の研修会が旭川で開催された時に、運転手として先生たちを乗せて旭川へ同行。先生たちが分科会参加の日、別行動で旭川近郊の町の二軒長屋に住む知人に会いに行きました。その知人の隣に住んでいたのが脱サラして直ぐの有機農業を始めただけのご夫婦だったのです。驚きました、その時顔を合わせていたのですね。

さて、小麦はやがて嬉しい収穫の時を迎えます。「一粒の麦は、地に落ちて死ななければ一粒のままである。だが、死ねば多くの実を結ぶ」（ヨハネによる福音書 12 章 24 節）。聖書にあるイエスの言葉を実感。刈り取り束にした小麦を立てて畑で天

日乾燥させ、脱穀し保存。パン作りの時に石臼で挽いて使いました。収穫の際いつも思ったのですが、自分はこの先あと何回収穫の時を迎えられるのだろうかと考え、大きな時の流れの中に確実に自分は生きているということに思いを馳せる瞬間があります。そう、ずっと昔から続いてきた営み（お米作りもそうですが）、パンの文化圏の中では、ムギを作り

収穫し粉にしパンを焼き食べるという人々の一連の営みそのものが大切なことを教えてくれているような気がします。（次頁へ続く）



季節の風

きれぎれの  
風はなびけり

花菖蒲  
はなしょうぶ

羽州

アヤメ科の多年草。六月頃高い花茎に大きな花をつける。

(前頁から続く)

ある本で読んだのですが、今でも昔から続くパン焼きをしている西欧のいくつかの小さな村では、パンを作る過程で何度か十字を印したり、祈りを唱える場面があるそうです。パン生地をこね終わった時や、記事をパン窯に入れる時、窯の扉を閉めた時、パンに初めてナイフを入れる時など。粉や生地を寝かせている待つだけの時間、人の目から消え、委ねるしかない場面で、十字を印したり祈りを唱える。つまり、パンは人の力だけでは作れないこと、神様の助けがあってこそ小麦が実りパンがふくらみパン窯で焼きあがるという人々の感謝の思いがそこにあります。そして神様の祝福をいただいて人はパンを口にすることが出来るということの意味しています。

ところでタイトルの「麦日和」の意味ですが、麦の種蒔きや収穫などにちょうど良い日(日和)のことです。私はこの4月から幼稚園の園長という重責を担うことになりました。今の願いは、幼稚園が麦にとっての「麦日和」ならぬ子どもたち一人一人にとっての「いい日和」として在り続けること。目に見える成長とともに、見えないけれど心の根が豊かに伸びていけるよう、先生たち・保護者の皆さんと一種に子ども達の今に寄り添い支えていくこと。子どもたちから学び成長していける自分であること……。

寺本司祭ご夫妻がテレビ出演

(もっともジョンが主役でしたが)

NHK日胆地方で元「ふきのとう」メンバーの細坪基佳さんが唄う「花は咲く」をバックに寺本JOHN君が出演。その経緯を寺本敦子さんが寄稿してくださいました。

映像はネットで(NHK室蘭放送局)→(花は咲く)→(新しい家族がやってきた～芽室町の夫婦)でまだご覧になれます。

## 「ウチの john」

マリヤ寺本敦子

ある日の新聞の囲み記事がコトの発端・・・いやいや、もともとイヌ好きな老いた2人の思いが始まりでした。前の犬マコが召されて約4年。又欲しいけどいつまで世話が出来るか心配と妹たちの反対で諦めていたところへ東日本大震災の被災犬の里親募集が目についたのです。「預かり」なら別れはいつか来るでしょうが、いつときの楽しさは味わえると応募したところ預かり犬は持ち主が近くにとのことで無理とわかりました。しかし参考にと引き取り犬のリスト(写真つき)が送られてきてはもう後戻り出来ず、第3希望まででしたうちのなんと第1希望の彼がかなりの高倍率の抽選であたってしまったのです。添えられていたコメントは「大変利口で、人馴れしている・・・2011年7月1日 檜葉町下小堀で収容」。

12月7日 もう止めようと決めた冬道のドラ

イブ、しかも悪天候の中、軽自動車に年寄りマークをつけて2人で札幌までお迎えに参上した次第。年齢はほぼ4歳? 名前は勿論不明。ずっと番号で扱われていたのでしょうか(首輪にはno28と)最初から不安そうではあるものの、おとなしい穏やかな車の好きな犬でした。名前は丁度次男の香の誕生日でしたので彼のクリスチャンネームのヨハネ(JOHN)とつけましたが、2~3ヶ月は呼んでもキョトン。早速翌朝から2人と1匹の散歩が始まり今に至ります。



平凡な老人の生活に新入りが加わり、この1年余り、トラブル続出。十勝には例のないフィラリア症の治療・肝臓の薬・・・と病院通い。最も難儀なのは留守番大嫌いで脱走大好き・・・何せ学習能力の高い犬ですから想像を超える行動で外へとびだします。はじめの何回かは名前も土地勘もない時でしたからずいぶん心配して2人で探しまわりました。が、必ず1人?でもどってくるのがわかり、脱走のカウントも10回ぐらいでやめました。今もその癖は全く衰えず、網戸3枚壊し、ドアの近くの木の棧はかじってボロボロ。お隣から借りたケージは初日で壊し、初めて預けたペットホテルではサークルの柵から頭が出なくなり鉄製の柵を切ったそうで、再度の利用を断られる始末。やっと昨年秋頃からクルマに乗せて一緒に連れ歩くという選択に落ち着きました。毎主日の礼拝中も音鑑の例会も駐車場のクルマの中でまことに静かに待っています。そこが彼にとって決して置き去りにされる心配の無い安住の地なのでしょう。「独りにされる事」「閉じ込められる事」「見えない大きな音」が大嫌いで二階の掃除機の音におびえて震えています。

どんな経験をしたのでしょうか! どんなにつらいおもいをしたのでしょうか! どんなに飼い主を待ち焦がれたことでしょうか! こんな利口なよい犬を置き去りにせざるをえなかった元の飼い主も、johnも誰も悪くないのに。この理不尽な状況を耐えるしかないのでしょうか? 色々思い巡らすと不憫でついつい甘い親バカ? になってしまいます。

未曾有の大災害に見舞われた犠牲者と膨大な数の被災者の方々、johnと同じ境遇の沢山たくさんの動物を思う度に胸が痛みます。せめていつまでも忘れないで居たいと思います。

## 5月の教会委員会の報告・決議

1. 「宣教協議会の提言」に関する学習会を開催。  
→6月1日(土)午後
2. 教会改築計画について  
→幼稚園改築検討委員会に併せて検討

## 今後予定される行事

- 6/1 私達の教会の「宣教・牧会の10年」懇談会
- 6/21~23 教区修養会(釧路)
- 6/30 十勝キリスト教連合同祈禱会  
(当教会会場)
- 7/28 主教巡回日
- 9/23 聖公会バザー
- 10/11~13 教区礼拝研修会(当教会)

## ◎教区修養会のご案内

☆日 程：2013年6月21日(金)~23日(日)  
☆場 所：ホテル・グリーンパークつるい  
(釧路・鶴居村)

☆参加費：14,000円

☆講 師：西原廉太司祭(中部教区)  
岡谷聖バルナバ教会管理牧師  
1962年 京都生まれ  
立教大学副学長、  
聖公会神学院特任教員  
世界教会協議会(WCC)中央委員  
など  
著書  
『聖公会が大切にしてきたもの』  
『続・聖公会が大切にしてきたもの』

※部分参加も出来ます

寺本司祭が司祭按手50年を迎えられました。



去る5月18日に行われた教区礼拝の中で、寺本司祭が司祭按手50周年を迎えたことが紹介され、同じく50周年を迎えた小貫司祭と共に、会衆と聖職団から暖かいねぎらいと感謝の拍手が送られました。その後、両司祭は植松主教を中心に祭壇につき(写真)、感謝聖別を行われました。ますますのご健康をお祈りいたします。(下澤司祭記)



## ハレルヤ農園便りNO.2

月中旬に耕作人夫婦一同参集し、各家の耕作区画を確認し、その後堆肥を施し畝づくりを行いました。これからは、週末になると各家都合をつけて種蒔きや苗植え等の農作業を行う事となるでしょう。今年は天候の関係で昨年よりは若干始動は遅くなりました。

後は、主の導きにより好天に恵まれ野菜の生育が順調に進む様願っています。

農園耕作人 高橋

## み言葉の礼拝へのご案内

6月23日は「教区修養会」で下澤司祭も寺本司祭も釧路へ行かれていますが、聖餐式はありませんがみ言葉の礼拝を守ります。

今までに数回行われています。新しい礼拝の形とはいえ、会衆が聖書のみ言葉を中心に共に祈り、感謝と賛美の豊かな礼拝を献げることが出来ることを意図として作成されています。

## 編集後記

〈情けは人の為ならず〉ということわざの意味を現代人は、「情けをかけることは結局その人の為にはならない」と誤って解釈しています。本来は、「情けをかけることは人の為にではなく、巡り巡って自分に返ってくるので、誰にでも親切にした方が良い」と言う教えです。でもそれって何だか自分主義？ですね。〈ギブ & テイク〉は何だかしっくりこないし〈Win, Win〉はガツガツしているし。もっとも、前職では“お中元”や“お歳暮”が無ければ成り立ちにくい商売でしたけど。それからすると、見返りを求めない〈pay it forword〉は他人から受けた思いや善意を相手ではなく他の誰かへ渡そうとするもので、無限の広がり想像させます。ネイティブ・アメリカンの社会では〈give away ギブ・アウェイ〉とか〈give & give ギブ・アンド・ギブ〉が伝統社会の福祉システムでもあった訳です。でも私たちも聖餐式のなかで共に唱えてますよね、『すべてものは主の賜物。わたしたちは主から受けて主に献げたのです』と。